





- 本商品のお手入れをする際は、安全のため必ず AC アダプタをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、本商品の AC アダプタをコンセントから抜き、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本商品の AC アダプタをコンセントから抜いてください。
- 本商品の使用中や使用直後に AC アダプタが高温になる場合があります。やけどなどの恐れがありますので注意してください。
- USB ケーブルは、必ず本商品に添付のものをお使いください。また、本商品に添付の USB ケーブルは、他の製品に使用しないでください。故障の原因となることがあります。
- USB ケーブルの両端の根元を強く引っ張ったり、曲げたり、コードを機器に巻きつけたりしないでください。

#### 禁止事項

- 無理な力がかかるところ（ズボンのポケット、かばんの底など）に入れないでください。破損、故障の原因となります。
- 本商品に乘らないでください。特に小さいお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。
- 雷が鳴りだしたら、AC アダプタのコードに触れたり周辺機器を接続したりしないでください。落雷による感電の原因となります。
- 「[つなぎかたガイド①](#)」にしたがって接続してください。間違えると接続機器や回線設備が故障することがあります。
- クレジットカードなどを本商品に近づけないでください。磁気カードのデータが消える恐れがあります。
- 充電体カバーを外したまま使用しないでください。充電体パックが外れたり、故障、破損の原因となります。

#### microUSB コネクタ

- microUSB コネクタなどにゴミやほこり、金属片などの異物を絶対に入れないでください。故障や記録内容の消失の原因となります。

#### SIM カード（microSIM）

- SIM カード（microSIM）は当社指定のものを使用してください。指定以外のものを使用した場合、データの消失、故障の原因となります。
- 落したり、ぬらしたり、曲げたり、衝撃を与えたり、重いものをのせたりしないでください。故障の原因となります。
- 火のそばやストーブのそばなど高温の場所で使用したり、放置しないでください。変形、データの消失など故障の原因となります。
- 他の製品の IC カードリーダーなどに SIM カード（microSIM）を取り付けしないでください。故障の原因となります。故障した場合、お客様の責任となり、当社ではいっさいの責任を負いません。
- SIM カード（microSIM）の金属部を傷つけない、ショートさせたりしないでください。データの消失、故障の原因となります。
- SIM カード（microSIM）は本来の用途以外の方法で使用しないでください。データの消失、故障の原因となります。
- SIM カード（microSIM）の金属端子部分は汚さないでください。故障の原因となります。汚れたときはやわらかい布などでふき取ってください。
- SIM カード（microSIM）を取り外すときは、指でカードを押し込み、カードが出てきても、すぐに指を離さないようにしてください。また、取り付けるときは、カードがカチッと音がするまでしっかりと押し込み、すぐに指を離さないでください。SIM カード（microSIM）を装着しているカードスロットを顔の方に向けて急に指を放すと、カードが飛び出して危険です。

#### ディスプレイ

- ディスプレイにものを当てたり、強く抑えたり、本体を落したりすると割れることがあります。故障の原因となります。
- 万一、ディスプレイが割れた場合は、ディスプレイから漏れた液体には絶対に触らないでください。感電やけがなどの原因となります。
- ディスプレイを強い力でこすったり、押したり、とがったものや固いもので突かないでください。けがや故障の原因となります。
- つめをたてて操作しないでください。けがや故障の原因となります。

- ディスプレイに砂埃やゴミなどを付けないように注意してください。ついた場合は、やわらかい乾いた布などできれいにふき取ってください。そのままご使用されますと、ディスプレイに傷がつき故障の原因となります。

#### その他の注意事項

- 使用中は本商品が熱くなることがありますが、手で触れることができる温度であれば故障ではありません。ただし、長時間触れたまま使用すると、低温やけどになることがあります。
- 皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用を止め、医師の診断を受けてください。お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じる場合があります。
- 小児が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教え、使用の途中においても、指示どおりに使用しているかどうか注意してください。間違った使用はけがの原因となる可能性がありますので十分にご注意ください。
- お客様ご自身で本商品に登録された情報は、別にメモを取るなどして保管してくださいようお願いします。
- 万が一、登録された情報内容が消失してしまうようなことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 自動車の電子機器に影響が出る場合は、使用しないでください。安全に走行できなくなる恐れがあります。

### リチウムイオン電池の取り扱いについて

#### 危険

- 水・海水・ジュースなどで濡らさないでください。充電体パックに組み込まれている保護機構が壊れると、異常な電流、電圧で充電体パックが充電され、発熱、破裂、発火の原因となります。

- ストープなどの熱源のそばに放置しないでください。発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックの充電は、本商品に実装して、「[つなぎかたガイド①](#)」に記載された方法で行ってください。それ以外の方法では充電しないでください。他の充電器などで行うと、充電体パック内部で異常な化学反応が起こり、漏液、発熱、発煙、破裂、発火する原因となります。
- 充電体パックはプラス・マイナスの向きが決められています。本商品に取り付けるときにうまく入らない場合は無理に取り付けしないでください。プラス・マイナスを逆に取り付けると、充電体パックが逆に充電され内部で異常な反応が起こり、充電体パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

- 充電体パックは直接電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口に取り付けしないでください。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、充電体パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

- 本商品には充電体パック（ラベルに「AL1-003988」と記載されているもの）を添付しています。指定の充電体パック以外の充電体パックを使用しないでください。漏液、発熱、破裂、発火、機器本体の故障の原因となります。

- 充電体パックは、本商品専用です。指定機器以外の用途に使用すると、機器によっては異常な電流が流れ、充電体パックが破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックを火の中に投入したり、加熱したりしないでください。絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構を損傷したりするだけでなく、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックの（＋）と（－）とを逆に使用しないでください。逆に充電された場合、充電体パック内部の異常な化学反応を誘発するうえ、放電時は異常な電流が流れる可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックの（＋）と（－）とを金属で接続しないでください。またネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。充電体パックがショートし、過大な電流が流れ、発熱、破裂、発火、あるいはネックレス、ヘアピンなどが発熱する原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。充電体パックに組み込まれている保護機構が壊れ、異常な電流、電圧で充電体パックが充電される可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。充電体パックが変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックに直接はんだ付けしないでください。熱により絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護回路が損傷し、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックを分解したり、改造したりしないでください。充電体パックには危険を防止するためのガス排出弁や保護機構が組み込まれています。これらを損なうと、充電体パックが発熱、破裂、発火する原因となります。
- 火のそばや、炎天下駐車車の車の中などでの充電はしないでください。高温になると危険を防止するための保護機構が働か、充電できなくなったり、保護機構が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因となります。

#### 警告

- 本商品および充電体パックは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。不用意な取り扱いは危険をともないます。
- 電子レンジや高压容器に入れてしないでください。急に加熱されたり、密閉状態が壊れたりして発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電体パックの使用、充電、保管時の異臭、発熱、変色、変形、その他今までと異なることに気がついたときは、本商品より出して、使用しないでください。使用を継続すると充電体パックが発熱、破裂、発火する原因となります。
- 充電時、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を停止してください。充電体パックが発熱、破裂、発火する原因になる恐れがあります。
- 充電体パックが漏液したり異臭がするときには、直ちに火気より遠ざけてください。漏液した電解液が目に入り、破裂、発火する原因となります。
- 充電体パックが漏液して液が目に入ったときは、こすらずに水道水などのきれいな水で充分洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。放置すると液により、目に障害を与える原因となります。

#### 注意

- 直射日光の当たる場所、炎天下駐車車の車内など、高い温度になる場所に放置しないでください。充電体パックを漏液させる原因になる恐れがあります。
- 危険防止のため保護機構が組み込まれています。保護機構に損傷を与える可能性のある静電気が発生する場所では使用しないでください。保護機構が壊れ発熱、破裂、発火の原因となる恐れがあります。
- 充電体パックの充電温度範囲は、0℃～35℃です。この温度範囲以外での充電は充電体パックを発熱、破損させる原因になる恐れがあります。
- 充電体パックを使用する前に、本書および「[つなぎかたガイド①](#)」をお読みください。また、お読みいただいた後は大切に保管し、必要ときにお読みください。
- 充電体パックの充電方法については、「[つなぎかたガイド①](#)」をよくお読みください。
- 充電体パックをお買い上げ後、初めてご使用する場合に、さびや異臭、発熱、その他異常と思われたときは、使用しないで、お買い上げの販売店にご持参ください。
- 充電体パックの充電や放電中に、可燃物を上に載せたり、覆ったりしないでください。充電体パックを発熱、破裂、発火させる恐れがあります。

- 充電体パックが漏液して液が皮膚や衣服に付着した場合には、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。

- 充電体パックを保管する場合および廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。他の充電体パックや金属製のものと混ぜないようにしてください。

#### お知らせ

- 充電体パックは消耗します。充電や使用方法によって、劣化しやすくなります。
  - ・電池残量が十分にある状態で満充電を繰り返すと劣化が早くなりますので、1 目盛りになってからの充電をお勧めします。
  - ・満充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管はしないでください。
  - ・電池残量なしの状態（本体の電源が ON でできない程度消費している状態）での保管はしないでください。
  - ・高温になる場所では、劣化が早くなります。涼しい場所で保管してください。
  - ・落とさないでください。強い衝撃を与えると、激しく劣化したり、故障の原因となります。
- 充電中に使用すると、充電と放電を短時間で繰り返すことになり、充電体パックの寿命が短くなります。
- AC アダプタを使用している場合でも、充電体パックは徐々に劣化します。長時間 AC アダプタをつないだ状態にしていると、充電体パックの劣化を早めてしまいます。本体を使用していないときで、充電体パックを充電していない場合は、AC アダプタを外してください。
- 長期間（半年以上）お使いにならない場合、電池特性を維持するため半年に一度は電池残量を確認し、40％程度充電することをお勧めします。充電体パックが電池残量なしの状態で長期間保管しますと、充電できなくなることがあります。（保管されている温度により充電できなくなるまでの期間は変わります。）
- ご使用の条件により、寿命が近づくにつれて充電体パックが膨れる場合がありますが、安全上問題はありません。

#### 使用済み充電体パックの処理

- 充電体パックの金属端子は、ビニールテープなどで必ず絶縁してください。ショートにより発火・発煙の原因になる恐れがあります。
- 充電体パックは、絶対に解体しないでください。解体すると金属端子が露出し、ショートの原因となります。
- ご使用済みの充電体パックは一般家庭ゴミとして棄てないで、「充電体パックのリサイクルについて」にしたがって処理してください。棄てられた充電体パックがゴミ収集車内などで破壊されてショートし、発火・発煙の原因になる恐れがあります。

#### 充電体パックのリサイクルについて

本充電体パックは、リチウムイオン電池です。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。不要になったリチウムイオン電池は廃棄せず、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って、お買い上げいただいた販売店またはリサイクル協力店へお持ちください。

※ 充電体パックのリサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRC ホームページ <http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html> を参照してください。

<div><div><div><div><div><div><span></span></div></div></div><div><div><div><span></span></div></div><div><div><span></span></div></div></div></div></div></div>	Aterm MR03XX 用充電体パック (AL1-003988) (XX には英字がります。製品名と読み替えてご利用ください。) (1UF575555S-B003A) 公称電圧：3.8V 公称容量：2300mAh
--	---

#### 充電体パックのご利用上の注意

- 充電体パックの寿命は、お客様のご利用環境により変わります。いざという場合に備えて、早めの交換をお勧めします。
- 新しい充電体パックは、Shop@Aterm (<http://shop.aterm.jp/>) でお買い上げください。
- 充電体パックは消耗品です。満充電時でも、約 1 時間しか使用できなくなった場合は、充電体パックの寿命が考えられますので、充電体パックの交換をお勧めします。
- 本商品を保管される場合は、充電体パックの性能や寿命を低下させないために、次の点にご注意ください。
  - ・満充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管はしないでください。
  - ・電池残量なしの状態（本体の電源が入らない程度消費している状態）での保管はしないでください。
  - ・高温になる場所に置かないでください。長期間保管する場合は、涼しい場所に置いてください。
- 充電体パックの性能や寿命を低下させる原因となります。
- 電池保護のため、高温になったら充電を停止することがあります。

#### ご注意

- 本商品のマニュアルの内容の一部または全部を無断転載・無断複写することは禁止されています。
- 本商品のマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本商品のマニュアルの内容については万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤り・記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- 本商品の故障、誤動作・天災・不具合あるいは停電などの外部要因によって通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- セキュリティ対策をほどこす、あるいは、無線 LAN の仕様上やむをえない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任はいっさい負いかねますのであらかじめご了承ください。
- せっかくの機能も不適切な扱いや不測の事態（例えば落電や漏電など）により故障してしまつては能力を発揮できません。本商品のマニュアルをよくお読みになり、記載されている注意事項を必ずお守りください。
- Wi-Fi と Bluetooth の同時利用は可能ですが、速度が遅いなどの影響が出る可能性があります。

#### メンテナンスバージョンアップ機能　機器情報の扱いについて

メンテナンスバージョンアップは、本商品のソフトウェアに重要な更新 <sup>(※)</sup> があった場合、自動でバージョンアップする機能です。この機能に必要な本商品の機器情報を NECプラットフォームズ株式会社（以下「当社」とします。）のサーバに通知いたします。

- 通知される機器情報
  - お客様がご使用になっている本商品の機器情報
  - お客様がご使用になっている本商品のネットワーク情報
- 情報利用の目的について

本機能の実現と本商品や本機能の改善、向上のためにお客様の機器情報を利用いたします。お客様の機器情報は、本機能を実現するために利用し、これ以外の目的では利用いたしません。
- 情報の管理

当社が利用するお客様の情報につきましては、当社の取り扱い手続きに則り、適切な管理を行います。当社が第三者と連携して実施する本機能につきましても、当社の取り扱い手続き同様に適切な管理を実施します。

本機能は、工場出荷時に機能が有効になっておりますので、お客様が本商品の電源を入れることで機能の提供が開始されます。本機能が必要とされない場合は、「メンテナンスバージョンアップ機能の停止方法」「[ユーザーマニュアル](#)」を参照のうえ、機能を停止してください。

＜停止方法＞
① WWW ブラウザのアドレス欄に「<http://aterm.me/>」と入力し、クイック設定 Web を起動する
② 「ユーザー名」（上段）には「admin」と半角小文字で入力し、「パスワード」（下段）にはお客様が設定した管理者パスワードを入力する
③ 「詳細設定」－「その他の設定」を選択する
④ [補助設定] にある【メンテナンスバージョンアップ機能】の【使用する】のチェックを外す
⑤ [設定] をクリックする

（※）「重要な更新」とは、当社が本商品の機能を提供するうえでソフトウェアのバージョンアップが必須と判断した場合を示します。重要な更新がある場合は、別紙に記載のホームページにてご案内します。

#### 無線 LAN 製品ご使用におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線 LAN アクセスポイント間で情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  - 悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
  - 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）。特定の人物になりまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）等の行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN 製品は、セキュリティに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することを勧めします。セキュリティ対策をほどこす、あるいは、無線 LAN の仕様上やむをえない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社はこれによって生じた損害に対する責任はいっさい負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、無線 LAN をより安全にお使いいただくために、暗号化キーは定期的に変更することをお勧めします。

#### 本商品が使用しているソフトウェアについて

本商品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを手し、GPL または LGPL にしたがって、複製、頒布および改変することができます。詳細は「[ユーザーマニュアル](#)」を参照してください。

#### 電波に関する注意事項

- 本商品は、技術基準適合証明を受けています。
- 本商品は、IEEE802.11ac、IEEE802.11n（5GHz）および IEEE802.11a 通信利用時は 5GHz 帯の電波を使用しております。5.2GHz、5.3GHz 帯の電波の屋外での使用は電波法により禁じられています。
- 5GHz 帯で使用するチャネルは 36,40,44,48ch（W52）と 52,56,60,64ch（W53）と 100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch（W56）です。従来の IEEE802.11a で使用の 34,38,42,46ch（J52）の装置と IEEE802.11a モードでの通信はできません。

IEEE802.11b/g/n	<ul style="list-style-type: none"><li>W52（5.2GHz 帯 /36,40,44,48ch）、</li></ul>
IEEE802.11a/n	<ul style="list-style-type: none"><li>W53（5.3GHz 帯 /52,56,60,64ch）、</li> <li>W56（5.6GHz 帯 /100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch）が利用できます。</li></ul>
J52 J53 W52 W53 W56	

5GHz 帯で接続する子機は、以下の表示があるものを推奨します。

- ・ W52（5.2GHz 帯 /36,40,44,48ch）
- ・ W53（5.3GHz 帯 /52,56,60,64ch）
- ・ W56（5.6GHz 帯 /100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch）
- W53（52/56/60/64ch）または W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）を選択した場合は、法令により次のような制限事項があります。
  - 各チャネルの通信開始前に、1 分間のレーダー波検出を行いますので、その間は通信を行えません。
  - 通信中にレーダー波を検出した場合は、自動的にチャネルを変更しますので、通信が中断されることがあります。
- IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時および Bluetooth を用いた通信利用時、リモート起動設定した休止状態では、2.4GHz 帯域の電波を使用し、この周波数等では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線機、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用機内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
- すべての Bluetooth 機器との接続を保障するものではありません。
- 本商品は 2.4GHz 全帯域を使用する無線設備であり、IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時は、移動体識別装置の帯域が回避可能ですが、Bluetooth 使用時は移動体識別装置の帯域を回避不可能です。変調方式として DS-SS 方式、OFDM 方式および FH-SS 方式を採用しており、と干渉距離は、DS-SS 方式および OFDM 方式で 40m、FH-SS 方式で 10m です。

2.4DS4/OF4/FH1	<div> <div>2.4</div> <div>2.4GHz 帯を使用する無線設備を示す</div> </div> <div> <div>DS4</div> <div>DS-SS 方式で想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す</div> </div> <div> <div>OF4</div> <div>OFDM 方式で想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す</div> </div> <div> <div>FH1</div> <div>FH-SS 方式で想定される干渉距離が 10m 以下であることを示す</div> </div> <div> <div>■ ■ ■</div> <div>全帯域を使用し、かつ本商品としては移動体識別装置の帯域を回避不可能であることを示す</div> </div>
----------------	---

- 本商品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されないことを確認してください。
- 万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用チャネルを変更するか（IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時のみ）、使用場所を変えるか、または機器を電源 OFF（電波の発射を停止）にしてください。
- その他、電波干渉の事例が発生し、お困りのことが起きた場合には、別紙「お問い合わせ・アフターサービス」記載のお客様相談窓口にご連絡ください。

#### 電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VC01-B

#### リチウム系電池輸送規制について

本商品は、リチウムイオン電池を使用しています。本商品とリチウムイオン電池を組み込み、または同梱して輸送する場合は、輸送会社は「リチウムイオン電池を含んだ内容物」であることを伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。法令に基づく表示等を行わないで、空輸、海上輸送を行いますと、航空法、並びに船舶安全法に抵触し、罰せられることがあります。

#### 輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり外国の規格などには準拠しておりません。本製品を日本国外で使用した場合、弊社は一切責任を負いません。また、弊社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポートなどは行っておりません。本製品の輸出（非居住者への役務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、本製品の入手元にご相談ください。

■ Aterm は、日本電気株式会社登録商標です。
■ Bluetooth は、Bluetooth SIG,Inc.の登録商標です。
■ iPad、iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。
■ Android は、Google Inc.の商標または登録商標です。
■「QR コード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
■ その他、各会社名、各製品名およびサービス名などは各社の商標または登録商標です。
© NEC Platforms, Ltd. 2014